

(9) 四国



四国地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

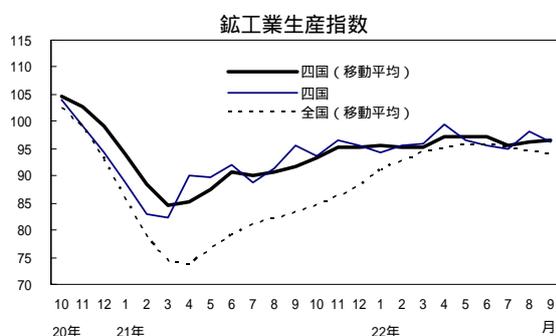
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年8月)	今回(平成22年11月)	
景況判断	持ち直しの動きが緩やかになっている	足踏み状態	
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられるものの、一服感がみられる	おおむね横ばい	
個人消費	持ち直しの動きがみられるものの、一服感がみられる	持ち直しの動き	
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

化学は、医薬品を中心に増加している。電気機械は、ノートパソコンの需要が不振だったことから、部品となる蓄電池、LEDが低調となり、減少している。食料品は、一部の企業でたれの生産が好調だったことなどから、増加している。パルプ・紙は、一部の工場で定期修理に伴う生産停止などのため、減少している。一般機械は、化学機械貯蔵槽の一時的な需要があったことから、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

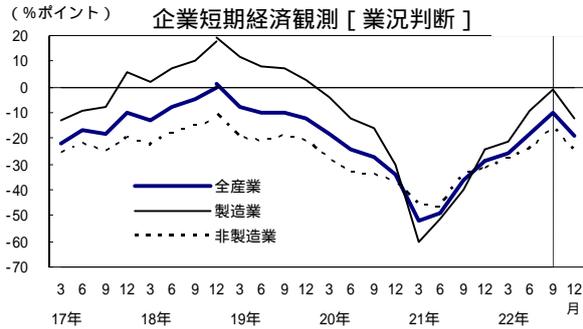
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
化学	17.1	11.3	3.1	0.2	15.0
電気機械	15.4	10.7	8.3	6.8	22.1
食料品	13.6	0.2	3.7	1.7	2.1
パルプ・紙	11.8	1.0	4.1	3.7	0.5
一般機械	8.9	2.9	7.4	5.5	2.3
鉱工業	100.0	2.0	0.8	2.1	4.8

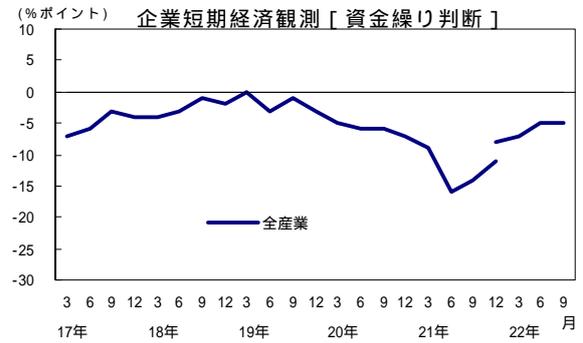
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいである。

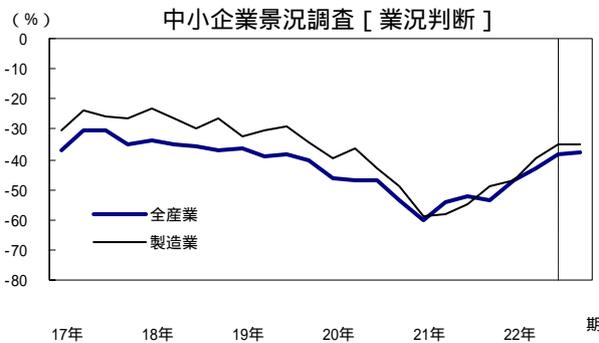
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

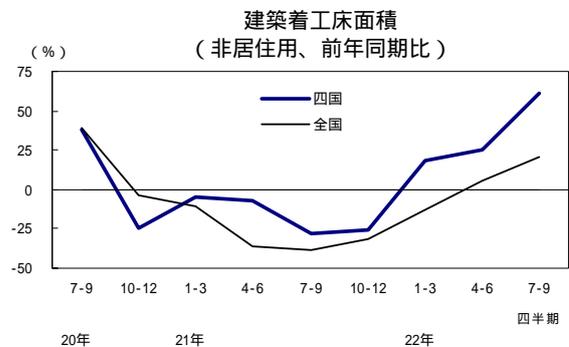
「競争が厳しい。輸出も円高で受注単価が下がっている(一般機械器具製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	11.5	5.9(7.0)
製造業	24.9	28.0(11.1)
非製造業	5.8	14.1(1.9)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

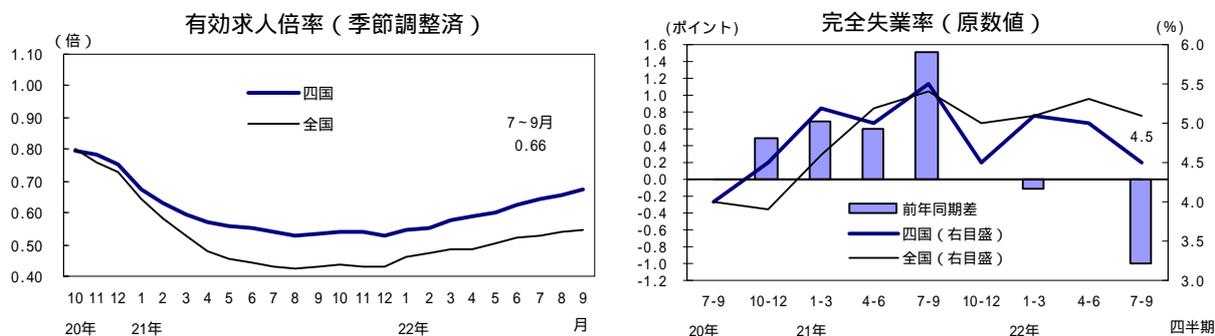


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(8月)[雇用関連(現状)]

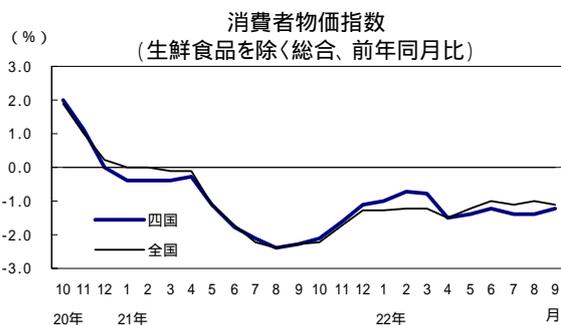
「7月の求人増加状況から、秋採用に向けてもう少し増えると予想していたが、8月は思いのほか求人が伸びず前年同期に比べても減少している。しかし、県内求人に限ると7月比では半減したものの、前年同期比では若干ながら増加している(学校「大学」)など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月	22年10月
倒産件数	102	73	94	81	20
(前年比)	1.9	41.1	6.0	4.7	56.5
負債総額	1,785	219	135	220	22
(前年比)	848.8	63.7	41.8	32.4	81.0



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・10月の入込客数は、3か月前比、また昨年比でも改善している。ドラマの影響による四国ブームで上向き傾向である(観光型旅館)

<先行き>

- ・自動車の補助金終了や、家電製品のエコポイントの付与率が減少する分、消費が食品に回ってくる可能性がある。気候が冷え込んでくれば、食品の売れ行きは良くなる(スーパー)

